

氣温零度
に近し

十月二日はより英領印度に屬す。然れども、未だヒマラヤ山脈に非ずして依然崑崙山脈なり。氣温は日出前零度に近く、日昇りて始て六度、夕刻には三十一度を示しぬ。朝來頭痛甚しく、人馬共に食進まず。

頂上の平
地

ブルサに
到着、食
氣を生ず

午前七時二十分發、今日亦デブサン嶺を超えざるべからず。十一時三十分、南折して愈々該嶺に向ひ、例の如く大病人の状態を以て午後二時三十分全く超過し畢りぬ。(嶺南より東南に進む)嶺は喀喇崑崙山と同じく、登坂急ならず。降坂は稍之に反せり。頂上は大波狀の臺頂を爲して、平地を行くに異ならず、依然西風強し。昨日來山々概ね花崗岩より成りしも過嶺後は俄然硅岩、泥岩と變し花崗岩は僅に處々に散見するに過ぎず。午後六時三十分、行程十五里餘、ブルサに到着。此の夕、人馬共に少しく食氣を生じ、水絶えて氷を煮る。

一四、草根を掘り燃料と爲す

三日西風甚しく、氣温は午前十九度、午後四十七度幕内朝三十度を示す。午前七時三十分出發、路は十時頃より、十一時三十分頃に至る間は、中腹道西方を指し、次で午後零時三十分に至る迄は、南方を指して漸次に下り、次で又西行廣谷を溯る傾斜